

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

皮膚科の臨床 (2002.06) 44巻6号:643～645.

横紋筋融解症をともなったComa Blisterの1例

本間 大、加藤直樹、南 仁子、高橋英俊、山本明美、橋
本喜夫、飯塚 一



症 例

横紋筋融解症をともなった Coma Blister の 1 例

本間 大* 加藤 直樹* 南 仁子** 高橋 英俊***
山本 明美*** 橋本 喜夫*** 飯塚 一***

要 約 60歳, 男性。原因不明の急性昏睡患者に生じた coma blister の 1 例を報告した。被圧迫部位に水疱を生じ, 血中ミオグロビン, 尿中ミオグロビン, 筋原酵素が上昇, 腎機能が悪化した。血液透析を施行し腎不全は急速に軽快した。coma blister は種々の原因により生ずるが, 皮膚症状に加え横紋筋融解症に付随して急性腎不全等の全身症状をともなうことがあり, 留意が必要である。

I はじめに

coma blister は種々の原因による急性昏睡患者にみられ, 被圧迫部位に生ずる水疱を特徴とする。決してまれな疾患ではなく, 水疱が見逃された場合, 褥瘡として治療される症例も少なくないと思われる。また皮疹が一見軽度であっても横紋筋融解症を併発し全身管理を要する症例が報告されている。今回われわれは, 横紋筋融解症にともない急性腎不全を生じた coma blister の 1 例を経験したので, 若干の文献的考察を加え報告する。

II 症 例

患 者 60歳, 男性
初 診 2001年2月9日
主 訴 足趾の水疱と紫斑
家族歴 特になし。
既往歴 てんかん, 精神遅滞があるが, 2000年8月以降受診は途絶えていた。過去に軽度の腎機能障

害を指摘されたことがある。

現病歴 2001年2月8日, 自宅で意識を消失し倒れているところを知人に発見された。当院救急外来受診時, Japan coma scale 上 10 点の意識障害があり, 血液検査で高度の腎機能障害を認め, 血液透析が施行された。その際, 足趾の皮疹を指摘され翌日当科を受診した。

当科初診時現症 右第 1, 4 趾, 左第 1, 2, 4 趾に拇指頭大までの紫斑と緊満性水疱があり, 一部の水疱は趾間に限局していた (図 1-a)。また, 入院時に皮疹がなかった仙骨部にも手掌大の紅斑とびらんがみられた (図 1-b)。

組織学的所見 足趾: 表皮下水疱がみられ, 表皮は全層にわたり変性し核は消失している (図 2-a)。真皮ではほぼ全層にわたって, 毛細血管が拡張, 血栓を形成し, 血管周囲性に単核球が浸潤する。真皮内のエクリン腺房部では細胞質が均一に好酸性に染まり, 腺房細胞の変性が確認された (図 2-b)。

臨床検査成績 BUN 105 mg/dl, Cre 4.3 mg/dl, K 5.7 mEq/l, CK 4568 IU/l, アルドラーゼ 11.6 IU/l, 血清ミオグロビン 9026 ng/ml, 血糖 79 mg/dl, 尿中ミオグロビン 1758 ng/ml, 尿中ケトン体

* Masaru HONMA & Naoki KATO, 市立稚内病院, 皮膚科 (主任: 加藤直樹医長)

** Masako MINAMI, 遠軽厚生病院, 皮膚科 (主任: 水元俊裕院長)

*** Hidetoshi TAKAHASHI, Akemi YAMAMOTO, Yoshio HASHIMOTO & Hajime IIZUKA, 旭川医科大学, 皮膚科学講座 (主任: 飯塚 一教授)

(別刷請求先) 本間 大: 旭川医科大学皮膚科 (〒078-8510 旭川市緑が丘東 2-1-1-1)

(キーワード) coma blister, 横紋筋融解症, 急性腎不全

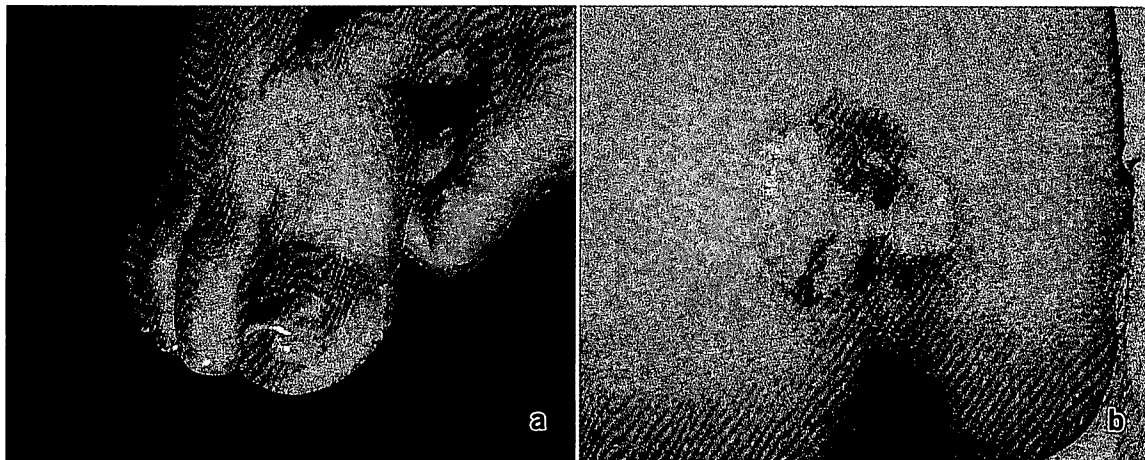


図1 a: 足趾の緊満性水疱
b: 仙骨部の熱傷様紅斑およびびらん・潰瘍病変

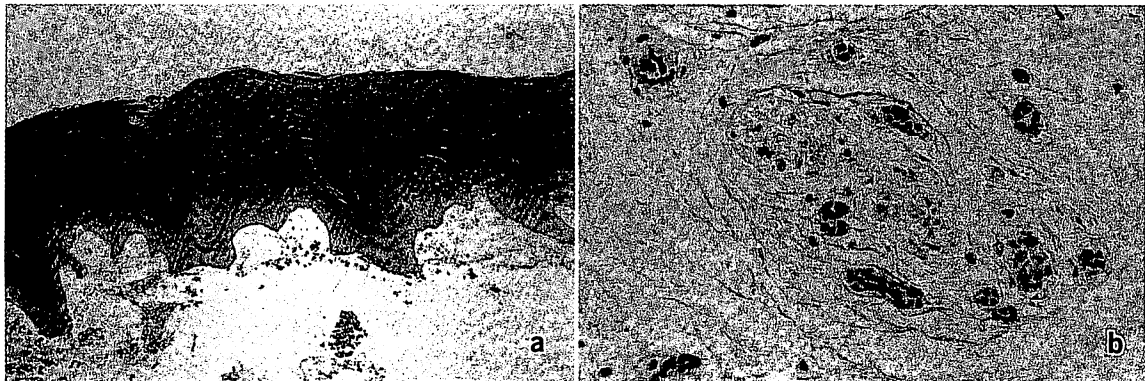


図2 a: 表皮の壊死および表皮下水疱
b: エクリン腺房部の壊死像

陰性、血中フェノバルビタール、フェニトイン濃度はいずれも正常。また、頭部CT、MRI上も意識障害の原因となるような病変は確認できなかった。

診断および経過 以上から本症例を原因不明のおそらくてんかんにもなう急性昏睡患者に生じ、横紋筋融解症を合併したcoma blisterと診断した。腎不全症状は血液透析により急速に改善し、その後も良好な経過を示したことから、腎機能の悪化は横紋筋融解症に付随した急性腎不全と考えた。仙骨部、足趾の水疱は一部が潰瘍化した。保存的処置により約6週間で上皮化した。現在のところ明らかな運動機能障害は認めていない。

III 考 察

coma blisterは、Mehreganらの報告¹⁾以来、

種々の原因による昏睡患者にみられる水疱性病変を包括した疾患概念として用いられている。バルビタールを代表とする各種薬剤による昏睡のほか、中枢神経障害や全身麻酔²⁾もその原因となりうる。通常、昏睡後24時間以内に被圧迫部の熱傷様紅斑、水疱、びらん等の病変を生じ、組織学的に表皮下あるいは表皮内水疱とともにエクリン腺の壊死像がみられる。褥瘡とは類似の病態であるが、局所の圧迫による循環不全に加え、昏睡に付随する低酸素低栄養状態等の全身的要素が付加される点で病像が異なると考えられる。薬剤の関与については組織学的な検討もなされており^{3,4)}、薬剤非関与例では、表皮への炎症細胞浸潤の程度が軽度で真皮血管の血栓形成の傾向が高

いとされる。自験例も組織学的に薬剤非関与例の所見に矛盾しないものであった。coma blisterは原則として被圧迫部位に生じるが、自験例では足趾と仙骨部の2カ所に皮疹が生じており、一定の体位では同時には圧迫されない部位に存在していた。自験例ではcoma scaleが10点と比較的軽度であり、おそらく体動により圧迫部位の変動があったと推定している。

coma blisterでは横紋筋融解症を併発する症例も散見される⁵⁾⁶⁾横紋筋融解症は種々の原因により骨格筋が急性かつ大量に崩壊する病態をさし、ミオグロビン尿の検出が特異的とされる。自験例では尿中ミオグロビンのほか、血清ミオグロビン、CK、アルドラーゼの高値を示し、さらに腎機能障害をともなっていた。横紋筋融解症に付随する急性腎不全をともなったcoma blisterと考えた。過去の報告では高度の腎障害を呈した例はまれであるが、輸液管理や血液透析を要することもあり、慎重な対応が必要である。横紋筋融解症は全身麻酔時の悪性高熱症にともなうものが有名で、その本態は骨格筋におけるCa濃度調節機構の異常とされるが、coma blisterにともなう場合

は皮膚同様に虚血性の機序から横紋筋の変性が生ずると考えられている⁷⁾。

coma blisterは決してまれな病態ではなく、褥瘡として皮膚科医が治療にあたる症例も多数あると思われる。皮疹は一見軽症のようでも自験例のように横紋筋融解症、さらにそれに付随して腎不全症状をともなう可能性もあり、合併症についても十分な認識が必要であろう。

本症例は日皮学会第346回北海道地方会において報告した。

(2001年9月13日受理)

文 献

- 1) Mehregan DR: J Am Acad Dermatol, 27: 269-270, 1992
- 2) 大草康弘, 田中 信: 皮膚臨床, 37: 889-892, 1995
- 3) Sanchez YE et al: Am J Dermatopathol, 15: 208-216, 1993
- 4) Kato N et al: Am J Dermatopathol, 18: 344-350, 1996
- 5) 後藤一史ほか: 西日皮膚, 57: 943-947, 1995
- 6) 谷戸克己ほか: 臨皮, 54: 602-604, 2000
- 7) 福士雅子ほか: 臨皮, 54: 979-982, 2000